

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【公表番号】特表2007-510401(P2007-510401A)

【公表日】平成19年4月26日(2007.4.26)

【年通号数】公開・登録公報2007-016

【出願番号】特願2006-534123(P2006-534123)

【国際特許分類】

C 12 Q 1/68 (2006.01)

C 12 N 15/09 (2006.01)

C 07 H 19/04 (2006.01)

【F I】

C 12 Q 1/68 Z N A A

C 12 N 15/00 A

C 07 H 19/04

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月13日(2007.6.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0077

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0077】

本発明において使用するための最も好ましい普遍的な塩基としては、ポリマー骨格上の2位に共有結合した非置換および置換ピラゾロピリミジン、より特定的には、グアニニアログ6-アミノ-1H-ピラゾロ[3,4-d]ピリミジン-4(5H)-オン(40)、アデニニアログ4-アミノ-1H-ピラゾロ[3,4-d]ピリミジン(38)および2H-イソキノリン-1-オン(25)、6-メチル-2-イソキノリン-1-オン(41)および8-メチル-2-イソキノリン-1-オン(42)、6,8-ジメチルイソキノリン-1(2H)-オン(48)が挙げられる。塩基アナログは、オリゴヌクレオチド中に存在する場合、ミスマッチ識別および特定の遺伝子型特定を改良する。天然に存在する塩基、改変塩基および塩基アナログの全ての互変異性体形態は、本発明のオリゴヌクレオチド結合体中に含まれてもよい。本発明において有用な他の普遍的な塩基としては、表1に列挙される化合物が挙げられる。